

家庭数

理科便り

平成29(2017)9月5日

明石小学校長 玉田



なつやす

ナミアゲハのペア

夏休みに見つけたよ

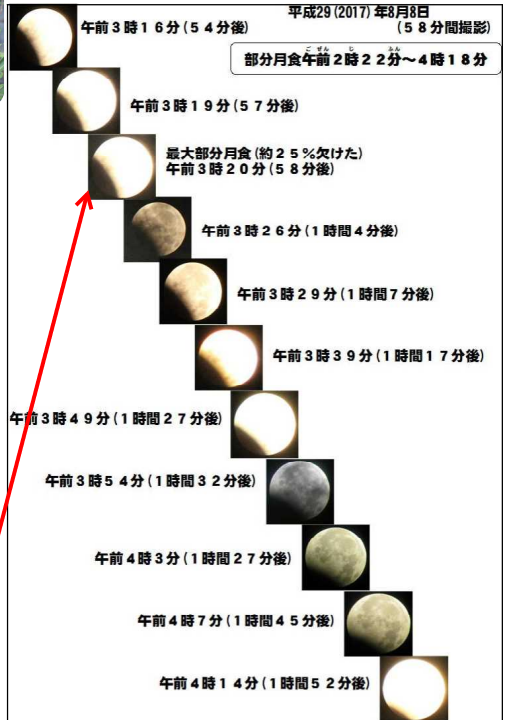


ぶ ぶんげつしよく

部分月食が見られたよ 8月8日

8月8日の月食(げつしよく)は、まえの日の学童水泳(がくどうすいえい)も中止(ちゅうし)になった台風(たいふう)5ごうのために、見るのはむりだろうとおもっていて、つい寝過(ねす)ごしてしまいました。そのため、はじまって54分後(ぶんご)からのかんさつになってしまいました(>_<)。

みぎの写真(しゃしん)は、望遠鏡(ぼうえんきょう)をとおしてとった写真です。ときどきピントが合わなくて苦労しましたが、3時(じ)20分(ぶん)には、この日の最大食(さいだいしよく)でやく4分の1が欠(か)けました。いつも見ている月(つき)とどうちがうかわかりますか。欠け方のちがいがわかりましたか。



かい き にっしよく

アメリカでは皆既日食が見られたよ 8月21日

この夏休みにもっともわだいたったのは、ひだりの写真のような皆既日食(かいきになっしよく)です。アメリカ全土で見られたのは99年ぶりだったそうです。日本からもたくさんの人が見に行ったそうです。(わたしも行きたかったけれど(;_;))

日本では、13年後(ねんご)2030年に北海道(ほっかいどう)で見られます。

かわ さかな かんさつ

川の魚の観察をしたよ 8月1日



カニ



エビ

市内(しない)のせんせいの理科研修(りかけんしゅう)で、明石川(あかしがわ)の支流(しりゅう)の市民病院北側(しみんびょういんきたがわ)をながれる伊川(いがわ)で生き物観察会(いきものかんさつかい)をおこないました。なんと、ウナギの稚魚(ちぎょ)をはじめ、タモロコ・オイカワ・ブラックバス・エビ・カニなどたくさんの生き物を見つけることができました。いくつかをこうちょうしつまえで育てています。



伊川で見つけたウナギのあかちゃん



ウナギを見つけたよ



タモロコ



オイカワ

タモロコ コイ科(か)で、淡水魚(たんすいぎょ)です。川岸(かわぎし)のゆるやかなながれやため池(いけ)などにいます。水くさや水生昆虫(すいせいこんちゅう)などを食(た)べ、かおがまるくずんぐりとして口に2本のひげ、体に黒っぽい線(せん)があります。2年で9~10cmほどになり、3年ほど生きます。

こんちゆう

み

なつやす

がつこう

あかしこうえん

こうべしにしく

昆虫をたくさん見つけたよ

夏休みに、学校や明石公園、神戸市西区や伊丹市昆虫館(いたみしこんちゆうかん)などで、たくさんの昆虫(こんちゆう)を見つけて写真(しゃしん)をとりましたので、いくつかをしょうかいします。



学校で見つけた
アオモイイトンボ

アオモイイトンボ(イトンボ科)

きれいな淡緑色(たんりよくしよく)ではらはしが青色のイトンボ。平地(へいち)や海ちかくの池(いけ)、水田(すいでん)などで見られます。メスにはオレンジ色からみどり色にかわるするタイプもあります。大きさは35mmほどです。



シオカラトンボのメス

シオカラトンボ(トンボ科)のオスとメス

もっともみじかにいるトンボ。シオカラトンボとは、おとなになって水色になったオスにつけられた名前(なまえ)で、ちゃ色いメスはムギワラトンボともよばれています。山から住宅地(じゅうたくち)までの池や川、湿地(しっち)、水田など、どこでも発生(はっせい)します。今年1番見かけたトンボです。

シオカラトンボのオス

タイワンウチワヤンマ(サナエトンボ科)

もともと九州(きゅうしゅう)や四国(しこく)の方にすんでいましたが、30年ほどまえに近畿(きんき)でも見つかりました。公園(こうえん)の池でも生息(せいそく)し、ふえてきています。腹(はら)のさいごがひろがってウチワ状(じょう)になっているのがなまえの由来(ゆらい)です。”ヤンマ”とありますがヤンマ科でなく、オオサカサナエなどのサナエトンボ科です。サナエトンボ科はヤンマのように複眼(ふくがん)がせつすることがなく、左右(さゆう)にわかれています。



タイワンウチワヤンマ

キイロスズメバチ(スズメバチ科)

明石公園(あかしこうえん)の石垣(いしがき)ですごいことを見つけました。ミツバチの巣(す)をおそうキイロスズメバチにミツバチが大群(たいぐん)でたたかっている場面(ばめん)でした。このハチは25mmほどの大きさで、きいろい部分(ぶぶん)がおおく、樹液(じゅえき)だけでなく昆虫(こんちゆう)もおそって食(た)べる攻撃性(こうげきせい)がつかよいハチです。



オオゴマダラ(マダラチョウ科)

沖縄地方(おきなわちほう)にいます。伊丹市昆虫館(いたみしこんちゆうかん)で乱舞(らんぶ)していました。はねは130mmと大形(おおがた)で、白色(はくしき)で黒斑(こくはん)があり、ひらひらとゆったりととび、つかまりやすい。花のみつがすきです。みぎのサナギは5cmほどの紡錘形(ぼうすいけい)できいろい液体(えきたい)がつまっているため、黄金色(おうごんしよく)に黒斑(くろふ)が見え、大きな枝(えだ)にぶらさがっています。



オオゴマダラ



金色(きんいろ)に輝く
オオゴマダラのサナギ

キボシカミキリ(カミキリ科)

大きさ30mmで11月ごろまで見られ、深緑色(しんりよくしよく)の体(てい)にうすき色の斑点(はんてん)があるカミキリムシ。すんでいるばしょで色や斑紋(はんもん)にちがいがあり、幼(よう)虫(むし)はクワ、ミカンなどの生木(なまき)を食べます。



キボシカミキリ

コジャノメ(タテハチョウ科)

大きさ30mmの目玉(めだま)のもよりのめだつ茶灰(ちゃはい)色のチョウ。雑木林(ぞうきばやし)などでよく見みられます。



コジャノメ